

半世紀前からの

「今、蘇る『文集』」

贈り物

蒲郡市民間大使
内田雅敏プロフィール
水竹町生まれ
東京弁護士会所属
著書「憲法読本」「戦後補償を考える」など多数

——前号のあらすじ——

内田氏に表紙が赤子をおぶったねいやを描いた小学2年(昭和28年)の文集が届きました。

「まえがき」には、当時の先生たちの文集に懸ける熱い思いが書かれています。それを読んだ内田氏は次第に当時の様子を思い出していきます。

昭和28年12月といえば、前年サンフランシスコ講和条約の発効により日本が占領下から抜け出し、独立を回復したばかり。朝鮮戦争もようやく休戦協定が成立したところ、敗戦によって壊滅した日本経済が朝鮮特需によって復興のきっかけをつかんだとはい

え、まだまだ貧しい時代で、子供たちも鉄くずなどを拾って鉛代の足しにしていた。貧しい時代ではあったが、貧しさは皆同じであり、今日とは違って時間もゆっくり流れ、子供たちには「豊かな」時代ではなかったかとも思う。

蒲郡の町は、東西北の三方を低い山に囲まれ、ちょうど鎌倉に似た地形となつている。南面する海は、かつては鉄道唱歌の何番目かで「東海道にすぐれたる海の眺めは蒲郡」と、うたわれたくらい白砂と青松の海岸が美しかったという。

つづく

みんなで考えまい！

蒲郡のまちづくり

「都市計画マスタープラン」

前に町並みが変わったって話聞いたけど道路もずいぶんかわったんだよね

そうじゃのう。昔、小坂井から西尾を結ぶ「平坂街道」っていう大きな道が蒲郡を通ってたんじゃが、今は、その面影はあまり無いのう。じゃが、その街道沿いにある



た常夜燈が今でも蒲郡に残つとるぞん。すなメリーも一度探してみちゃどうだん。

昭和になると、まちづくりを考えていく上で、道路もどのようにするか考えられたんじゃ。それを都市計画道路っていうんじゃ。今の星越バイパスやオレンジロードなんか

まちづくりに道路って必要なんだね

ほうだのん。例えば、道路がなかったり狭かったら、家が建てられんし、救急車や消防車が通れんくなるだら。でな、道路は人や車だけが使うんじゃなく、水道管や下水管も通つておるんじゃ。

がそうじゃな。そのほかにも蒲郡には、「観光のまち」らしく、三河湾スカイラインや三ヶ根山スカイラインのような観光道路も作られたのん。

それじゃ、早く、きちんと道路ができるといいね

今、蒲郡じゃ、山のほうで名古屋と豊橋を結ぶ名古屋バイパスと、町では中央バイパスっていう道路の整備が進められとる。

この2つの道路ができるとまちなかの渋滞がかなり減るじゃる。他にも道路の計画はあるってことじゃが、今計画されとる道路ができるのは、まだまだ時間がかかりそうじゃな。

【計画開発課】 ☎66・1142